

日中両言語における「泣き」に関するオノマト ペの使用について

孫 逸

キーワード：日中対照、泣き、オノマトペ、使用実態

要 旨

本稿は日中両言語における「泣き」に関するオノマトペの使用実態を調査し、その特徴を明らかにするものである。本稿では日中コーパスを利用して「泣き」に関するオノマトペの用例を収集し、それらの使用実態を調査した上で、「擬音語」「擬態語」の分布特徴と使用上の特徴における日本語と中国語との相違を明らかにした。また、具体的な用法について、日本語における「泣き」に関するオノマトペは、動詞と共起する用法に集中していることがわかった。中国語における「泣き」に関するオノマトペが、“的”“地”との後接用法に集中しているが、擬態語の方が、その助詞の後に付く語のバリエーションが見られる。

1. はじめに

オノマトペは言語音と意味の間に有縁的な関係があるとされる語群であり、その言語音と意味内容の関わりは模写の関係にあると言われる。オノマトペは音や声を真似た擬音語と状態を真似た擬態語に大別される。日本語と中国語にはどちらにもオノマトペが存在しているが、その語数や使用率、および使用方法上には大きな相違がある。

日本語におけるオノマトペは、同じような場面で使われるオノマトペ同士が語形の上では似ているように見えるが、それぞれの語が異なるニュアンスを有している場合が少なくない。

また、中国語におけるオノマトペは、定義に定着してないところが存在し、数から見ても、日本語のより少ないと考えられる。そのため、対訳する際に、日本語オノマトペに対応する中国語オノマトペが無い場合が多いことが指摘されている。

日本語のオノマトペは語形の上では似ているものの、意味がどのように異なっているのかという点や同じ文型でオノマトペだけを入れ替えた場合にどのようなニュアンスの差異が生まれるかという点については、日本語学習者には理解が困難であると言える。すなわち、オノマトペの習得と使用は、日本語学習者にとって難しい課題の一つとなっている。

本稿は、オノマトペの中で基本的な感情表現と考えられる「泣き」に関するオノマトペを中心に、日本語と中国語での使用状況と使用特徴を考察し、それらの使い方の相違について考察する。

2. 先行研究

2.1 日中両言語におけるオノマトペの定義

日本語はオノマトペを用いた表現が豊かな言語であると言われている。近年では、日本語オノマトペに対する関心が高まっており、言語学だけではなく、認知科学、心理学など多様な分野から、日本語オノマトペが研究されている。

丹野 (2005) においては、オノマトペの音韻上の特徴と心理学との関係を検討した。丹野 (2005) は、「オノマトペ」とは「音による命名、音自身が名になる」もののことであると述べている。これを踏まえると日本語の「オノマトペ」とは「あるもの、ある現象」を音によって指示すること、「あるものの状態、あるものの発する音」をそのまま指示すること、と捉えることができる。つまり、日本語における「オノマトペ」という用語は、主に擬音語・擬態語の総称として用いられていると言える。

中国語の“象声词”の定義について、耿 (1986) は、“拟声词 (擬声詞)” の別称である“象声词 (象声詞)” が、自然界の音声を模倣する言葉であると述べている。それらは、造語法によって生じたものであり、自然界の音を模倣することで独自に系統を保っていると述べている。

中国語の“象声词”の定義から、中国語では日本語の「擬態語」に相当する語がないと考えられるが、実際の用例を見ると、中国語の中にも様子や状態を表す働きをしている語もある。

中国語の“象声詞”は「擬音語」だけに相当する説（耿（1986））もあるが、それに対し、野口（1995）では、擬態語に当たる言葉は中国語の文法用語にはないことを指摘している。しかし、野口（1995）は用語がないからといって擬態語自体がないわけではなく、ABB型形容詞は擬態語の一種であると指摘している。そのほか、文語の疊語・疊韻・双声の単語や口語における重ね形の中には擬態語的なものも含まれると述べている。

また、中国語において「擬態語」に相当する語があるかどうかについて、刘（2001）は、「“象声詞”は実際の音、声や様子を言語音で象徴的に表す語を指す。…しかし、“象声詞”は全部実際の音や声を模写しているわけではなく、具体的な音で物事の様子を表すときもある。」と主張している。

本稿は、先行研究の観点を踏まえ、中国語にも擬態語に相当する語があるという立場に立ち、考察を行う。なお、以下では日本語の場合は擬音語と擬態語を合わせて「日本語オノマトペ」という語を用いるため、中国語についても便宜的に用語を揃え、「中国語オノマトペ」と呼ぶことにする。

2.2 日中オノマトペの対照研究

呉（2005）は、日本語の文学作品『雪国』に出現したオノマトペ 224 例とそれに対応する 3 種の中国語訳の妥当性を、翻訳の視点から検討した。

呉（2005）が提示した翻訳方法を踏まえ、さらに具体的に翻訳方法を示したのが徐一平（2010）である。徐（2010）では、多様な翻訳法を提示し、日中オノマトペが翻訳される際に直面する問題に対する解決方法を複数提案している。しかし、実際に翻訳する時、どの方法を選択することがより適切であるかという点について、その判断基準はまだ明らかになっていない。さらに、日中両言語におけるオノマトペの間どのような相違点が生じたのかという点やその相違点が生じた原因の解明については、議論の余地があるものと見える。

3. 研究対象と研究方法

まず、日本語の「泣き」に関するオノマトペは、『日本語オノマトペ辞典：擬音語・擬態語 4500』における「感情・感覚に関するオノマトペ」－【泣く】の部分で取り上げられている 46 語を対象とし、オノマトペの使用頻度を調べた。

また、中国語の「泣き」を表すオノマトペを抽出するため、《現代汉语规范词典》（2012 版）、《新华大字典》（2012 版）、《现代汉语词典》（2012 版）を参照し、「泣

く声」「泣く様子」「泣く表情」のような意味を持っている語、すなわち「泣き」を表現する 20 語を取り出した。

本稿では、日本語コーパスと中国語コーパスをそれぞれ利用して用例調査を実施するという研究方法を採る。日本語のオノマトペは、国立国語研究所で制作された『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ) (以下は「BCCWJ」と称する)を用いて用例を収集し、中国語のオノマトペは、『現代汉语語料庫』(CCL) (以下は「CCL」と称する)を用いて用例を収集した。日中両言語のコーパスをそれぞれ利用し、「泣き」に関するオノマトペをそれぞれ調査することで、日中両言語における「泣き」に関するオノマトペの使用実態を把握する。さらに、コーパスの用例を参照しながら、「泣き」を表現するとき使用される日中オノマトペは、それぞれどのような特徴を持っているのかについて、詳しく検討する。

4. 日本語における「泣き」に関するオノマトペ

4.1 擬音語と擬態語の分布

日本語における「泣き」に関するオノマトペの使用頻度を調査するため、「BCCWJ」を利用して研究対象の 46 語の用例数を調査した。その結果は以下の表 1 のようにまとめた。

表 1 日本語における「泣き」に関するオノマトペの用例

語	用例数	語	用例数	語	用例数
しくしく	97	ぐすぐす	4	えーん	0
ぼろぼろ	73	ぐすん	4	おーおー	0
めそめそ	68	ひーひー	4	ぎゃーぎゃー	0
ぼろぼろ	46	わーん	3	ぐすっ	0
おぎゃーおぎゃー	42	うわーん	2	ぐすり	0
うるうる	37	おんおん	2	ぐすりぐすり	0
おいおい	31	あんあん	2	くすん	0
わっ	28	えんえん	1	しぼしぼ	0
わんわん	25	ぐしょぐしょ	2	ひーこら	0

ぎゃー	25	しおしお	1	ひっく	0
さめざめ	24	よよ	1	ひっひっ	0
わーわー	18	べそべそ	0	ほろっ	0
あーん	7	ぐっすん	0	ほろりほろり	0
ぼろり	5	うえんうえん	0	ぼろりぼろり	0
ほろり	5	うるるん	0		
おろおろ	5	うるっ	0		

本稿は、調査対象の46語のオノマトペの中、擬音語と擬態語の分布状況を見るために、『日本語オノマトペ辞典：擬音語・擬態語 4500』の内容を参照した。『日本語オノマトペ辞典：擬音語・擬態語 4500』の語積を見ると、以下のような解釈が見られた。

- ① おぎゃーおぎゃー：【声】赤ん坊の泣き声。
ぐすぐす：【声】かぜを引いたり、また、泣いたりして、涙をすするときの音。
- ② うるうる：【さま】水気が有り余るさま。つやのあるさま。特に、目が涙でいっぱいになるさま。
めそめそ：【さま】声を立てないで静かに泣くさま。弱気で、何かという
とすぐ泣き悲しんだりするさま。
- ③ あんあん：【声・さま】人が大きな声を上げてなく声。また、そのさま。
しくしく：【声・さま】勢いなくあわれげに泣く声。また、そのさま。

以上の解釈を見ればわかるように、「泣き」に関するオノマトペは、【声】【さま】【声・さま】という3種類に分けられている。本稿は、泣く様子を表す意味だけを持つ語とそうではない語という基準で、日本語における「泣き」に関するオノマトペを2種類に分けた。その2種類の具体的な分布は以下の表2になる。

表2 日本語における「泣き」を表現する「擬音語」と「擬態語」の用例分布

分類	語	語数/ 比率	コーパス での用例 数/比率
擬態語	うるうる、うるるん、うるっ、おろおろ、ぐしよぐしよ、さめざめ、しおしお、しばしば、ひーこら、べそべそ、ほろっ、ほろり、ぼろり、ぼろぼろ、ほろりほろり、ぼろりぼろり、めそめそ、よよ	18/ 39.13%	221/ 39.32%
擬音語・ 擬態語	おぎゃーおぎゃー、ぎゃー、ぎゃーぎゃー、ぐすぐす、あーん、うわーん、あんあん、えんえん、うえんうえん、えーん、おーおー、おいおい、おんおん、ぐすっ、ぐすり、ぐすりぐすり、くすん、ぐすん、ぐっすん、しくしく、ひーひー、ひっく、ひっひっ、ぼろぼろ、わーわー、わーん、わんわん、わっ	28/ 60.87%	341/ 60.68%

日本語の「泣き」を表現するオノマトペの中で、擬態語の性質のみを持っている語は18語であり、比率は39.13%であるのに対し、擬音語と擬態語の両方の性質を持っている語は28であり、比率は60.87%であることがわかる。

また、研究対象の46語を【擬態語】【擬音語・擬態語】という分類基準で分類し、表1で表示された各オノマトペのコーパスでの用例数を計算すると、「擬態語」と「擬音語・擬態語」の用例数と比率は、221例(39.32%)と341例(60.68%)である。表2で表示したように、「擬態語」と「擬音語・擬態語」の語数とそれらの実際の用例数の比率を比較すると、大きな差がないことがわかった。

語数の比率調査とコーパスでの用例数の調査によって、日本語の「泣き」に関するオノマトペの擬音語と擬態語の分布状況は、①単なる「擬態語」である語が少ない、②「擬音語」の性質を持っている語は、ほとんど「擬態語」の性質を持っている語であるという二つの特徴を持っていることが読み取れる。すなわち、日本語における「泣き」に関するオノマトペには、「音」を模倣しながら「様子」を表現する語がかなりあるということである。

4.2 コーパスからの用法

本節では、「BCCWJ」を利用し、日本語における「泣き」に関するオノマトペと動詞との共起関係を考察する。表1を見ればわかるように、日本語における「泣き」に関するオノマトペは、用例がある語は27語しかない。本節では、研究対象と動詞との共起関係を明らかにするため、用例がある27語の各用法を調査した。その結果は、表3のようにまとめた。

表3 日本語における「泣き」に関するオノマトペの用法

語	全用例数	動詞と共起する用法								名詞用法	引用用法	その他	
		する	泣く	こぼれる	こぼす	出る	流す	流れる	落ちる				落とす
しくしく	97		51								46		
ぼろぼろ	73		4	20	14	2	19	1	5	2			
めそめそ	68	44	18								6		
ぼろぼろ	46	1	8	10	11	4	6	2					4
おぎゃー おぎゃー	42	2	4								11	24	11
うるうる	37	24									13		
おいおい	31		31										
わっ	28		28										
わんわん	25		25										
ぎゃー	25		9									15	1
さめざめ	24	1	22				1						
わーわー	18		18										
あーん	7											7	
ぼろり	5			1	3				1				
ほろり	5			1	1	2			1				

おろおろ	5	2	3										
ぐすぐす	4	1	3										
ぐすん	4		4										
ひーひー	4		4										
わーん	3		1								2		
うわーん	2		1								1		
おんおん	2		2										
あんあん	2										2		
えんえん	1										1		
ぐしょぐ しょ	2												2
しおしお	1		1										
よよ	1										1		

表3から、日本語における「泣き」に関するオノマトペの用法は、動詞と共起する用法に集中していることが見られる。また、全体的に見ると、動詞と共起する用法は、「する」と「泣く」との共起することに集中していることも見られる。それ以外の動詞は、例文(1)～(4)に示したように、すべて「涙」に関連する動詞である。また、「する」と「泣く」以外の動詞と共起できるオノマトペは、全部擬態語であり、涙の流れ方を表現する語であることがわかった。

- (1) 大つぶのなみだが、うろこのついたほっぺたをつたって、ぼろぼろとこぼれました。

(アン・フォーサイス『きょうりゅうが図書館にやってきた』1995)

- (2) 家庭環境、職場環境、そして自分の性格などを話し、涙をボロボロ流した。
(越原市美「ノン・キャリアからの子育て社長術」2004)

- (3) 今は別のことで頭がいっぱいだった。ぼろり、とまた涙が落ちる。

(前田珠子『柘榴の影』1991)

- (4) 「それ以上自分を責めるな。おまえはもう、十分に苦しんだ」涙でぐしょぐしょになった顔で、俺を見上げる。

(義月粧子『こんな男でよかったら』2003)

さらに、表2から、日本語における「泣き」に関するオノマトペには、「擬音語」の方が多くことがわかったが、「擬音語」の代表的な用法だと思われる引用用法の用例は少ない。

以上からわかるように、日本語では、オノマトペを使用して「泣き」を表現する時、動詞と共起する用法が多いと考えられる。さらに、「涙」を表現する擬態語以外、ほとんどの語は「する」と「泣く」との共起することが見られる。

5. 中国語における「泣き」に関するオノマトペ

5.1 擬音語と擬態語の分布

中国語における「泣き」に関するオノマトペの使用頻度を調査するため、「CCL」を利用して研究対象の20語の用例数を調査した。その結果は以下の表4のようにまとめた。

表4 中国語における「泣き」に関するオノマトペ

語	用例数	語	用例数
呜呜	832	潸潸	33
呱呱	545	泪盈盈	27
哇哇	489	哭咧咧	13
泪汪汪	375	呜哇	10
哭哭啼啼	333	哇啦啦啦	8
嗷嗷	302	滴滴答答	8
嘤嘤	152	哭咽咽	5
啊啊	128	哭兮兮	3
扑簌簌	102	哭哭咧咧	3
呜呜咽咽	91	哭唧唧	0

中国語の「泣き」に関するオノマトペを抽出するため、《現代汉语规范词典》（2012版）、《新华大字典》（2012版）、《现代汉语词典》（2012版）を参照し、「泣く声」「泣く様子」「泣く表情」のような意味を持っている語、すなわち泣きを表現する語を

抽出した。抽出された語を表現内容から分類すると、泣く声を表現する擬声語と、泣く様子を表す擬態語に分けられる。

表5 中国語における「泣き」を表現する「擬音語」と「擬態語」の用例分布

分類	語	語数/ 比率	コーパス での用例 数/比率
擬音語	呜呜, 哇哇, 呱呱, 嗷嗷, 嘤嘤, 啊啊, 呜哇, 哇啦哇啦	8/ 40.00%	2466/ 71.29%
擬態語	泪汪汪, 哭哭啼啼, 扑簌簌, 呜呜咽咽, 悄悄, 泪盈盈, 哭咧咧, 滴滴答答, 哭咽咽, 哭兮兮, 哭哭咧咧, 哭唧唧	12/ 60.00%	993/ 28.71%

中国語の「泣き」に関するオノマトペにおいて、擬音語と擬態語の使用状況を比較するために、表5のようにまとめた。表5から分かるように、中国語では、「泣き」を表現する擬音語の数は8語であり、比率は全体の40.00%しか占めていないが、実際のコーパスでの用例数を見ると、その用例数は全体の用例の71.29%に上ることが確認できた。その用例数の比率は7割に上ることで、「擬態語」のコーパスでの用例の比率は3割弱に下がった。すなわち、語数から見ると、中国語における「泣き」に関するオノマトペの中、「擬態語」の数が多いが、実際の使用状況を確認したところ、数が少ない擬音語の方が使用率が比較的高いと言える。

5.2 コーパスからの用法

本節では、「CCL」を利用し、中国語における「泣き」に関するオノマトペの用法を考察する。中国語のオノマトペの用法について、野口(1995)は、「状語(状況語)となる」「定語(限定語)となる」「補語となる」「謂語(述語)またはその中心語となる」「独立語となる」という5つの用法に分けている。

また、野口(1995)があげた中国語オノマトペの5つの用法は、後接する語によって、主に“的(de)”が後接、“地(de)”が後接、何も後接しないという3種類にまとめられる。これを踏まえた上で本研究は、後接語の種類によって、中国語の「泣き」に関

するオノマトペの他の用法を、“的 (de)” が後接、“地 (de)” が後接、引用用法¹、その他という4つの種類にわけて、それぞれの用例数を調査した。その結果は、表6のようにまとめた。

表6 中国語における「泣き」に関するオノマトペの用法

	語	全用例数	+ 的		+ 地		引用		その他	
			用例数	割合 %	用例数	割合 %	用例数	割合 %	用例数	割合 %
擬音語	呜呜	832	107	12.50	269	32.33	186	22.36	270	32.45
	呱呱	545	0	0.00	12	2.20	417	76.51	116	21.28
	哇哇	489	32	6.54	125	25.56	116	23.72	216	44.17
	嗷嗷	302	11	3.64	28	9.27	161	53.31	102	33.77
	嘤嘤	152	22	14.47	54	35.53	56	36.84	20	13.16
	啊啊	128	18	14.06	16	12.50	67	52.34	27	21.09
	呜哇	10	3	30.00	2	20.00	2	20.00	3	30.00
	哇啦 哇啦	8	2	25.00	2	25.00	4	50.00	0	0.00
擬態語	泪汪 汪	375	93	24.80	118	31.47	0	0.00	55	4.50
	哭哭 啼啼	333	84	25.23	51	15.32	0	0.00	36	4.66
	扑簌 簌	102	14	13.73	50	49.02	0	0.00	29	28.43
	呜呜 咽咽	91	17	18.68	41	45.05	0	0.00	8	3.36

¹野口 (1995) が挙げている【独立語となる】という用法は、日本語のオノマトペを考察する際に定義した【引用用法】と同じものであると捉えられる。ここでは、日本語の引用用法と比べるため、「引用用法」と呼ぶことにする。

悄悄	33	2	6.06	5	15.15	0	0.00	10	4.26
泪盈盈	27	5	18.52	7	25.93	0	0.00	9	11.11
哭咧咧	13	0	0.00	12	92.31	0	0.00	5	17.24
滴滴答答	8	4	50.00	4	50.00	0	0.00	0	0.00
哭咽咽	5	3	60.00	2	40.00	0	0.00	0	0.00
哭兮兮	3	1	33.33	0	0.00	0	0.00	2	66.67
哭哭咧咧	3	0	0.00	2	66.67	0	0.00	1	33.33

表6にまとめたように、中国語のオノマトペは“的”と“地”が後接する用法以外、「引用用法」も見られた。しかし、「引用用法」について、中国語の場合には「擬音語」「擬態語」の使い分けが明確に見られ、「擬態語」の性質を持つオノマトペは、引用用法として用いられないと言える。すなわち、中国語の場合、引用用法は「擬音語」に限定されているということになる。

また、擬態語グループのオノマトペの用法を見ると、それらの用例は“的”“地”が後接する用法に集中していることが指摘できる。

ここで、野口(1995)が示した中国語オノマトペの働きにおいて、“的”が後接する場合は、【定語(限定語)となる】【補語となる】【謂語(述語)またはその中心語になる】という3つの可能性があるのに対して、“地”が後接する場合は、【状語(状況語)となる】という働きのみである。続いてこの定義を利用して用例分析を行う。

- (5) a. 她那双泪盈盈的眼睛仰望着他，好像她认为他懂得一切，现在就等他的话来决定了。
 (《飘》)
 (【定語(限定語)】)

- b. 例如想到婆媳关系，就联想到哭哭啼啼的画面，可是现代人的婆媳关系是可以有更多面向的。
(蒋勋《孤独六讲》当代)
(【定語(限定語)】)
- c. 我还常见她和娜拉在一起说着什么，把娜拉说泪汪汪的。有一天，我正和依芙琳给驯鹿仔拴铃铛，娜拉突然跑过来问依芙。
(迟子建《额尔古纳河右岸》当代)
(【補語】)
- c. 李老喜说：“不错，唱得不错。就是这戏老哭哭啼啼的，让人败兴。
(刘震云《故乡天下黄花》当代)
(【謂語(述語)またはその中心語】)
- (6) a. 吴大爷说：“只看见有一群人哭哭啼啼地走出去了，没见抬死人出门。”
(《1994年报刊精选》当代)
- b. 孩子一听，竟仿佛受了多大的委屈，呜呜咽咽地抹开了眼泪。我没管他，竟自朝前走，因为回家的路他是知道的。
(《读者》当代)
- c. 就在登上舷梯前的刹那，苏珊眼泪汪汪地扑向丈夫的怀抱，告诉了一句深情的叮嘱。
(《1994年报刊精选》当代)

まず、擬態語の用法を見るために、(5)と(6)の例文を挙げた。(5)に挙げた擬態語に“的”が後接する用例を見ると、オノマトペの働きにはバリエーションがあり、【定語】【補語】【謂語】となることが確認できた。“的”が後接する語の品詞は全て名詞であるが、多様な名詞(例：眼睛；画面)が後接できる。さらに、(5c)と(5d)のように、何も後接せずに述語となる用法もある。

前述の通り、“地”が後接する場合は、オノマトペは【状語(状況語)となる】という働きのみを持つと考えられる。そのため、(6)で挙げた擬態語に“地”が後接する場合には、その後接する語の品詞は動詞であると言える。さらに、「泣く様子」を表す擬態語に“地”が後接する際に、後接する動詞は「泣く動作」を表す語に限られず、多様な動詞(例：走；扑；抹)が現れると言える。

次に、擬態語の場合と比較するため、擬音語に“的”、“地”が後接する用例についても考察する。

- (7) a. 一日将次初更，善世正读书，忽然听听呜呜的哭声，甚是凄惨，道：“是何处？
这哭声可怜。 (《作家的文摘》1993)
(【定語(限定語)】)
- b. 在歌里，侯世恭写道：“吻别嗷嗷的婴儿，告别温馨的家园，义无反顾奔向小汤山。
(新华社 2003 年 5 月份新闻报道，当代)
(【定語(限定語)】)
- c. 可是房间里却传出了声音，是父亲害怕邻居听到而压得低低的呜呜的哭泣声。
(杨恒均博客，当代)
(【定語(限定語)】)
- d. 瑞丰，平日对父亲没有尽过丝毫的孝心，也张着大嘴哭得嗷嗷的。
(老舍《四世同堂》当代)
(【補語】)
- (8) a. 走出几步，听到贺玉梅在办公室呜呜地哭了。吕建国心里一酸，仰天长叹了一口气，大步走出楼去。
(《人民文学》1996 年第 1 期)
- b. 蓬头垢面的韦小纳扑到大汗淋漓的杨再勇怀里嗷嗷地哭了。
(新华社 2001 年 6 月份新闻报道)
- c. B 女士准备搬家另谋他处居住，毕强发现后失声哇哇地痛哭起来。
(1994 年报刊精选，当代)

(7)に挙げた擬音語に“的”が後接する用例を見ると、オノマトペの働きにはバリエーションがあり、【定語】【補語】となることが確認できた。また、“的”の後接する語はすべて名詞であるが、その内訳については殆ど「泣き声」の意味を表す語(例：哭声，哭泣声)が後接できる。

また、(8)に示したように、「泣き声」を表す擬音語に“地”が後接する場合には、その後接する動詞の内訳は主に「泣く動作」を中心にした語(例：哭；痛哭)である。

以上のように、「泣き」に関する擬音語と擬態語に“的”、“地”が後接する用例をそれぞれ分析した。これらの特徴をまとめると、表7のようになる。

表7 中国語の「泣き」に関する「擬音語」と「擬態語」に“的”、“地”が後接する用法の特徴

	後接助詞	オノマトペの働き	後につく語の品詞	後に付く語のバリエーション
擬態語	的	定語・補語・謂語	名詞	あり
	地	状語	動詞	あり
擬音語	的	定語・補語	名詞	あり
	地	状語	動詞	なし

表7から、中国語の「泣き」に関する擬音語と擬態語とにおける用法上の差異が明らかになった。擬音語と擬態語が“的”が後接する時、助詞の後に付く語のバリエーションが見られる。また、“地”が後接する時、擬態語であれ擬態語であれ、助詞の後に付く語が動詞であるが、擬態語だけは、その助詞の後に付く語のバリエーションが見られる。

6. おわりに

本稿では、日中両言語における「泣き」に関するオノマトペを中心に、それらの使用実態を把握し、用法の考察を行った。日中両言語のコーパスから得られた用例の分析によって、日本語における「泣き」に関するオノマトペは、擬音語の方が数も多くて、使用率も高いことが明らかになった。それに対して、中国語における「泣き」に関するオノマトペは、擬音語の数がないが、使用率から見れば、日本語の場合と異なり、擬音語の方が多用されることが明らかになった。また、具体的な用法の分析から、日本語の場合は動詞と共起する用法に集中していることが見られた。中国語の「泣き」に関するオノマトペの「引用用法」は擬音語に限られ、擬態語の方は“的”または“地”の後接用法に偏っており、特に“地”の後接用法が多用されていることを明らかにした。

本稿では、コーパスを利用して、日中両言語における「泣き」に関するオノマトペを比較してきたが、オノマトペが翻訳される際に両言語にはどのような差異があるかという点について、さらに検討する必要があると考えられる。このような点についての考察は、今後の課題にしたい。

参考文献

- 小野正弘 (2007) 『擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典』, 東京:小学館.
- 角岡賢一 (2007) 『日本語オノマトペ語彙における形態的・音韻的体系性について』, くろしお出版.
- 侯仁鋒・松尾 美穂 (2019) 「マンガにおけるオノマトペの中国語訳についての考察」『県立広島大学人間文化学部紀要』14:75-91, 県立広島大学.
- 呉 川 (2005) 『オノマトペを中心とした中日対照言語研究』, 白帝社.
- 田守育啓 (2002) 『オノマトペ擬音語・擬態語を楽しむ』, 岩波書店.
- 野口宗親 (1995) 『中国語擬音語辞典』, 東方書店.
- 徐一平・譙燕・吳川・施建军 (2010) 《日语拟声拟态词研究》, 学苑出版社.

用例出典

- 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ) 日本国立国語研究所
『現代汉语语料庫』(CCL) 北京大学中国语言学研究中心

ソン イツ／人文社会科学研究所
(2021年9月13日受理)